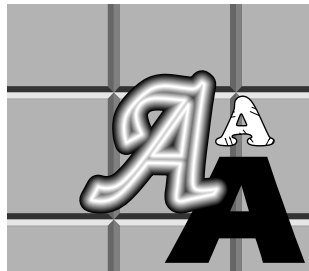


季刊 ジャネット Ja-Net



第13号

2000年4月25日発行

Ja-NetはJapanese Networkの略です。
「にほんご」を通して編集室と読者の皆様を結ぶ
情報誌にしたいと考えています。

スリーエーネットワーク

〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-6-3 松栄ビル
TEL 03-3292-6410 FAX 03-3292-6197
E-mail ja-net@3anet.co.jp

日本人になりたいくて

宣教師を辞め、日本に帰化した ツルネン マルティンさん



――「森と湖の国」フィンランドから、宣教師として日本に來られて、そのまま日本に永住することになった経緯に興味があります。

若い頃の私の夢は、アフリカで宣教師として黒人相手に奉仕活動することでした。実際に夢がかない、あのアパルトヘイトの国、南アフリカ共和国に送られることになったのですが、ちょうどその頃現地で紛争が発生し危険だからとビザがなかなか下りませんでした。しばらく待機していたのですが、たまたま日本の教会でケースワーカーを募集していることを知り、日本に行く決心をしました。そんなきっかけですから日本に来ることになったのは偶然というか運命的でした。当時の私は日本については全く興味も知識もなかったのです。

――そのツルネンさんが宣教師を辞め、帰化してまで日本に永住する決意をしたのはいつですか。

それは日本に来る前です。宣教師の使命を果たすのに5年や10年ではほとんど役に立たない、行く先がどこであれ、そこが私に与えられた仕事場、国だと考えていましたから。その私が宣教師を辞めたのは、日本では一般の人と触れ合うには宣教師という身分は邪魔になる。偉い先生として尊敬はされますが、溶

け込めない。それでは日本を理解することもできないと考えたからです。

宣教師を辞め収入がなくなったので、看護婦をしていた妻の幸子に支えられながら翻訳の仕事を始めました。翻訳は生計の手段でもありましたが、日本を理解するのに役立ったし、同時に日本をフィンランドに紹介するためにもなりました。その後、翻訳だけでは生計を立てるには不十分なので英語塾も始めました。これらの仕事は私にとっては最終的な目的というのではなく、過程であり、手段であったのです。しかし、長い間、自分の使命が何かわからず探しつづけました。そして最終的に自分が使命を果たせるのは政治に関わることだと悟ったのです。

――私がツルネンさんのことを知ったのは、ここ湯河原で青い目の議員さんが誕生して、マスコミが騒いだときでした。青い目の日本人、ツルネンさんに対する日本人の反発は感じませんでしたか。

私の場合それは極めて少なかったです。私は英語塾の先生、妻は看護婦をしていましたのでスムーズに地域社会に溶け込むことができましたのだと思います。子供たちも、英語塾の先生の子供ということもあるのか、いじめなどはほとんどありませんでした。小学校高学年

でちょっとしたことはあったようですが、大したことにはなりません。それから、後で知ったことですが、選挙運動のときはライバル陣営から、青い目の日本人に対するあらぬ中傷やおどしはあったようです。

――本誌の読者は日本語教師が多いのですが、ツルネンさんの学習体験から何か助言は…。

来日してすぐ、宣教師訓練の一環として東京・渋谷の長沼日本語学校で2年間日本語の勉強をしましたが、その教え方は素晴らしいと思いました。いろいろな国の学生相手だからかも知れませんが、先生は教室では最初から英語を使わず、すべて日本語でした。

――スリーエーネットワークのテキスト『新日本語の基礎』も『みんなの日本語』も、同じ教育法に沿ったテキストです。教室ではすべて日本語でというのは効果的な方法だと思いましたか。

授業以外の付き合いや学習でコミュニケーションのために英語を使うのはもちろん有用ですが、読者の先生方も授業はなるべく日本語でやった方がいいと思います。

私の英語塾もすべて英語でやっています。それから、英語学習でも同じですが、日本人は文法や発音の正確性にこだわりすぎると思う。会話が目的なら、それらは無視してもいいくらいです。

日本人は英語を聞くときほとんどの人がまず頭の中で日本語に翻訳してから理解します。直接英語で理解できるにはもっとヒアリングの訓練をすればいいと思います。

――国際化は日本でも避けられません。国際化のために日本人が変わるべきだと思う点は…。

国際化というとき、内なる国際化と外への国際化とがあります。国内では国際交流が盛んですが、外国人と接する場合、英語はなるべく使わないで欲しい。母語として英語を使っている外国人は、日本国内にはほんのわずかで、数%です。私にとっても英語は外国語です。止む終えず英語を使うことがあっても、基本としては日本語で話して欲しい。私も、電車の中などで日本人に話し掛けられることがあります。英語なのです。私に対する思いやりもあるでしょう。しかし、ここは日本なのだから、日本語で話して欲しい。もう一つお願いしたいのは、外国人との付き合いではもっと相手の国に関心をもって欲しいことです。誰でも自分の国のことは話したいと思っていますから積極的に聞いて欲しい。同時に外国人に日本の生活習慣に合わせることを要求しないことです、自分で希望するなら別ですが。例えばアメリカ人がアメリカ流の生活を望むならそれを認めてあげる。お互いに相手の文化を大切にする姿勢が必要です。

――英語が国際的なコミュニケーションの手段として有力になってきています。日本でももっと英語教育をという声が強いです。そうすると日本語など他の言語の運命はどうなるでしょう。

英語を勉強したからといって日本語が消えて行くことはありません。むしろ、日本語の良さ、美しさを知ることにもなります。フィンランドでは子供たちが学校でフィンランド語以外に2,3カ国語を勉強するのは常識です。私は日本語を勉強して、かえってフィンランド語の理解が深くなりました。他の言葉を勉強することはかえって自国の文化を豊かにすると思います。

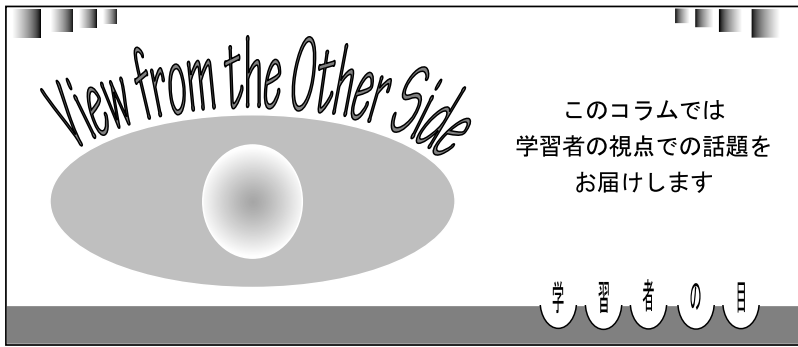
――ツルネンさんの奥さんは日本人ですね。国際結婚は異文化の同居で、いろいろと大変なこともあったと思います。異文化が原因の摩擦など経験談をお話ください。

夫婦の間の摩擦などしょっちゅうですよ。今は忙しくてそんなひまはありませんが。基本的に、ここは日本ですから、私は日本に合わせるようにしています。今までいちばん苦しんだのは妻の幸子があまり口に出して話してくれないことでした。日本人は相手を傷つけないなどの配慮で口に出さないことが多い。そのような日本の文化は私も知っていますが、夫婦など、親密な間柄においては思っていることはお互いに隠さず話すべきです。日本社会のことはだんだん理解できるようになりましたが、まだまだ違和感があります。この違和感がなくなるとき、私は完全な日本人になったと言えるのかも知れませんが。



ツルネン マルティ(弦念 丸呈)

1940年フィンランド生まれ。1967年ルーテル協会の宣教師として来日。1974年宣教師を辞職し、長野県安曇野村で日本古典文学の翻訳と英語塾を営む。1979年日本に帰化。1981年神奈川県湯河原町に転居、引き続き英語塾を経営。1992年湯河原町議会議員となる。1995年、1998年参議院議員選挙に立候補するが次点。現在、市民運動家として講演や文筆活動を行っている。



移民として異文化に飛び込んで

——ブラジルでの少年時代——

1963年の11月、小学校5年生の私は家族と共に沖縄から本土に渡り、移民としてブラジル行きの船に乗りました。約2カ月の船旅でした。当時は移民船と呼ばれ、一航海で約300人がブラジルへ渡っていました。日本、韓国、台湾、香港の人達が中心です。途中、香港、フィリピン、シンガポール、マレーシア、モーリシャス、ダーバン、ポートエリザベス、そしてケープタウンにも立ち寄りました。



ブラジルで生活を始めた頃の筆者(左) サンパウロ動物園にて

ブラジルでショックだったのは、日本での友達が6年生になろうというのに、私は小学校1年からの再スタートだという事でした。言葉(ポルトガル語)が全く解らないので仕方ありませんでした。

移民に対する特別のフォローは無く、最初は先生が黒板に書いたものを全部ノートに取り、家に帰ってから辞書で調べていました。しかし、それも大変でした。辞書で調べても、分からない言葉や漢字が多いからです。その都度、両親や兄姉達に日本語の意味を確認していました。ポルトガル語を勉強するために、日本語も勉強する、そんな毎日でした。それでも学校が楽しかったのは同年代の韓国、台湾、香港の友達がいたからです。お互いに言葉が通じないのによく一緒に遊びました。

当時のブラジルは義務教育ではなく、学びたい人だけが学校に来ていました。公立の学校は小学校から大学まで入学金も授業料もいりませんが、成績が悪ければ小学校の1年生でも落第です。小学校が4年、中学校も4年でした。現在は小中学校を一緒にして初等科8年で14歳までが義務教育となっています。進級進学はすべて試験の結果次第です。日本とは違って初等科を卒業する事が義務ではなく14歳まで勉強する事が義務なので、4年生さえも終わずに社会に出る人もたくさんいます。しか

し、それで普通の人生から外れるわけではありません。家が商売をしていればその手伝い、或いは大工、左官、菓子職人等を目指す人もいます。移民船で一緒だった友達の中にも学校へ行かず、家族全員で朝市やレストランで働いている人達がありますが、幸せに暮らしています。

家が貧しく、10歳くらいから家計を助けながら学校に通う子供も多いですが、ブラジル人は与えられた条件や環境の中で、「いかに楽しく生きるか」を考えるのは日本人よりずっと上手です。サッカーで遊んだり、歌ったり、踊ったり色々楽しみながら暮らし、自分の道を探します。貧しくて学校に行けなくてもそれでくさったりはしません。また、未成年でたばこを吸うのはよく見かけますが、親から小遣いをもらって吸うのではなく、自分で稼いでたばこを買うところが日本と違います。

ブラジルには16歳以上で中学、19歳以上で高校の卒業資格を検定で取得できる制度があり、社会人になってから再度学問を始める人がたくさんいます。私は小学校2年生の13歳の時に先生と意見の衝突があり、1カ月ほど登校拒否をした事もあり、17歳ではまだ初等科6年だったので嫌になり自主退学をしましたが、この検定制度を利用し、働きながら、18歳で中学、19歳で高校卒業の資格を取り、サンパウロ州立カンピーナス大学の工学部に入りました。退学に関しては勉強を諦めたわけではないので、家族は私の意志を尊重してくれました。理解が得られたのは小さい時からよく家族で会話していたからだと思います。大学卒業後は、財団法人海外技術者研修協会の研修生として来日し、一年半建築の勉強をさせていただきました。日本語の勉強を続けたことも役立ちました。

日本に戻って19年が過ぎ、当時の自分と同じような年齢の子供達(高3と中3)の親となり最近ブラジルでの生活をよく思い出します。厳しかったけれど生き生きと楽しい日々でした。

石川 毅(いしかわ・つよし)

スリーエーネットワーク研修部長。担当している業務は海外からの研修生受け入れのコーディネート。自分自身が研修生として学んだ経験を活かして企業と研修生の橋渡しをしている。東京都北区立飛鳥中学校PTA会長も努めている。

あちこち日本語ご紹介

国内編

群馬県
前橋市

やっぱりおもしろい予備教育

群馬大学留学生センター 庄司 恵雄

およそことばを教えることを生業とする人間にとって、やってきたことの成果をありありと眼にすることができることほど仕事冥利に尽きることはありません。国立大学に置かれる留学生センターには多様な機能が期待されているのですが、その最大のウエイトを占める仕事に、ゼロ・スターターを半年で3級程度にまで持っていくという予備教育があります。仕事冥利というなら、この仕事に従事することをおいてほかにありません。

留学生センターは1990年以来徐々に増え、現在では3分の1以上の国立大学に設置されるまでになりました。群馬大学にも昨年予算化され、10月から授業がスタートしました。初年度は予算上の制約が大きく不十分な立ち上がりでしたが、2年度からは事務局の協力体制も得て、バラエティに富んだ授業をたっぷりと提供できるようになりました。予備教育に週38コマ(1コマ90分、以下同じ)、一般院生対象に週28コマ、学部生対象に週6コマという授業を常勤教官5人(うち1人は相談兼務)と非常勤講師15人で担当します。キャンパスが3カ所に分かれているという特殊事情を差し引いても、留学生数250そこそこという地方大学としては恵まれた授業数だと思いにありませんか？



予備教育留学生の「日本事情」お茶会で(右端が筆者)

話を予備教育に戻すと、90年に東大など3大学に留学生センターが設置されて以来、時の経過とともに、予備教育に対する見方に微妙な変化が起きてきたように思えます。できるだけ手厚いコース・デザインをもって、精いっぱい優秀な修了生を輩出しようとした当初の意気込みが次第に薄れ、留学生の負担軽減・教師の研究時間確保などを理由に、教育期間短縮・カリキュラム削減が進んできました。しかし、このような理由づけは、日本語学校などの厳しい環境に置かれている教育機関な



留学生センター内で、予備教育留学生と日本人ボランティア学生

らおそらく通用のしない言いわけでしょう。もし予備教育が14週か15週しか要しないというのなら、26週分受け取っている経費の一部を返上しなければなりません。そうではなくて、与えられた条件を目いっぱい活用し、留学生がその奨学金の額に恥じない日本語力を養えるよう、最大の工夫をこらすのがプロではないかと考えています。そんなわけで、群馬大学では、留学生が前橋にやって来てから大学研究科に移るまでの半年間、できるだけ長く、できるだけ多くの授業を提供することと、身に付けた日本語が実際に使える、日本人がいる環境を用意するよう心がけています。予備教育を受けた留学生が、日本滞在中ばかりでなく、日本を離れてからも役立つ知的リソースをこの期間中に培う手伝いをしたいのです。そのために、現状では手に入らない予備教育専用教科書の開発や、留学生の研究活動に直結する日本語力養成を目指した教授法の開発など、手がけたいことがたくさんあります。

このほかにも、心配ごとがないわけではありません。たとえばその一つに、2年後に実施が予定されているいわゆる「新試験」があります。実施されると、いま以上に日本語力の低い学部留学生が増えることが予想されますが、そういう事態に備えて、学内で何ができるか、学部予備教育の経験豊富な日本語学校のみなさんから教えてもらいながら、一方では学内の専門教育教官と協力しながら、おそらく必要となるであろう補習体制の構築について、方法論・内容の両面から研究しなければなりません。いま、このような問題意識を共にする方々との共同研究を立ち上げる機会をねらっているところです。

ドンズー日本語学校のこの10年

岡村 多美子（ベトナム子供基金 事務局長）

ベトナム

ホーチミン市

ドンズー日本語学校は1991年にベトナム、ホーチミン市に設立された私立の日本語学校です。元日本留学生である校長の“国造りのために、日本の高い科学技術、文化を導入する必要がある。そのために、また若い人たちが日本に留学し勉強するためにも日本語は不可欠”という強い熱意のもとに設立されました。学校の名前は日露戦争に勝利したアジアの国である日本に学ぼうと、20世紀初頭に起こった“東遊（ドンズー）運動（東方＝日本に学ぶ運動）”にちなんでつけられました。



筆者が“あいいうえお”から教えた学生が今は先生になっている

1学期12週は共通で、CT（特急）週6日、1日4時間（288時間）、PC（普及）週6日、1日2時間（144時間）、PT（普通）週3日、1日2時間（72時間）の3つのコースがあり、576時間で初級、1152時間で中級を終了します。このほかに日本企業から委託された社員研修のためのクラスもあります。

「教師4名、1クラス、学生18名」でスタートしましたが現在は、ベトナム人教師27名、日本人教師9名、午前、午後、夜、合わせて64クラス、学生数は1,600名になりました。ベトナム人にとって日本は今でも“高い科学技術を持つ経済先進国”であり、電気製品、バイクなどはあこがれの対象です。1994年秋に関空—ホーチミン市直行便ができ、多くの日本企業が進出し、観光客も増えました。そのため、日本語を使う仕事に就くチャンスも増え、日本語人気も一層高まりました。また社会が安定し、授業料を払って勉強することができる層が増えてきたこともあり、学生数も飛躍的に増加しました。

1995年には本校校舎ができましたが、その後もそれまでと同様、学生たちの便を考え、本校以外に市内に2、3カ所の校舎を借り、授業を行っています。ベトナム人教師のほとんどはドンズー日本語学校出身者で、中級を終了した教師希望者のた

めのクラスで勉強を続けながら、早い人は勉強を始めて1年後には実際に教え始めます。

ベトナム人は一般的に暗記が得意で、大した苦もなく教科書を全て暗記してしまう人も多いのですが、その反面、自由な発想で表現、発話することは苦手なようです。本を読むこと、こつこつ勉強することが好きで、ひらがな、カタカナは最初の1週間で覚えてしまいます。また、ドンズーでは独自の漢字教育システムを持っており、定評があります。初級で約2000字を勉強します。そして、漢字能力試験を年4回実施しており、学校内外からの受験者は毎回150名に上ります。ベトナムは日本同様、歴史的に中国の影響を強く受けており、現在は全く漢字を使用していませんが、漢語由来の語彙が多く使われています。漢字のベトナム語音と関連づけて覚えていきますので、字を見て意味がわかるようになるのは非常に早く、漢字を怖れることはありません。とはいえ、字形や日本語としての読みを覚えるなど、勉強中はそれなりに苦労しています。しかし、卒業後、自ら勉強を続けていく上でも、また実際に日本企業などで仕事をしていく上でも、漢字がわかるということは非常な強みです。

私が教えていたのは1995年からの2年足らずですが、その後も教材作成のお手伝いなどでベトナムを訪れる度に、街のあちこちで通訳、ガイドとなり日本語を使って働いているかつての学生に出会います。“あいいうえお”から教えた学生たちが先生となり、教壇に立っているのを見るのは非常にうれしく、またその努力に感服します。

これまで著しい国の経済発展とともに設立の趣旨に従い着実に発展してきました。今後はカリキュラムの整備など、一層の質の向上が望まれます。



今年2月にドンズーへ訪れた時に音声教材を作成中の筆者

岡村多美子さんは現在ベトナム子供基金というボランティア団体に携わっています。興味のある方は下記に問い合わせ下さい。

ベトナム子供基金
経済的事情で学校教育を受けることができないベトナムの子どもたちに奨学金を支給したり、教育環境作りを整えるために活動している。
連絡先：東京都文京区本駒込2-12-13
アジア文化会館内
tel: 03-3946-4121 fax: 03-3946-7599

教材紹介

『みんなの日本語初級 漢字 英語版』 『みんなの日本語初級 漢字カードブック』

— 漢字は恐くない! 知っている語彙の中で漢字が学べる入門漢字教材 —

大阪大学留学生センター 新矢麻紀子



皆さんはタイやエジプトというような文字がわからない国に行かれたことがありますか。私はタイに行ったときの「字がわからないことのストレスの大きさ」のショックが今も忘れられません。非漢字圏から日本に來ている外国人もきっとこんな感じ、いえ、漢字の画数の複雑さだけでも、もっと大きな恐怖を感じながら日々暮らしているのだと思います。

このような外国人の最難関である漢字学習の苦勞を少しでも軽くできれば、という思いが本書の出発点です。そして「漢字って、ひたすら書いて覚えるしかないの?」「何かいい方法はないの?」という疑問から、入門期という最も大切な時期に、実質的、心理的負担を軽減し、楽しみながら、効率的に学べる方法を考え、従来と異なる新しいアプローチで作成したのが『みんなの日本語初級 漢字 英語版』です。

1. 3段階で、無理なく、スムーズに漢字学習に入る

Part : Introduction to Kanji(漢字への誘い)では、実際に手を動かすゲーム的な活動を通して、日本語の表記システムと漢字の形や意味的特徴が、「感覚的に」把握できます(次頁「図1」参照)。そして、Part : Introductory Lessons(入門レッスン)ではベーシック・ストロークと呼ぶ漢字の書き方の原理の習得や、漢字形の識別力の養成など漢字学習の基礎体力作りを行います。その後で、Part : Main Lessons(メインレッスン)の本格的な漢字学習に入ります(次頁「図2」参照)。従来、これらPart , に相当する部分は付屬的に扱われて來ましたが、ここを押さえておくことは、この先永い漢字学習を楽にできるかどうかの分かれ目と言えるほど重要なポイントです。

2. イラストで漢字語を導入する

Part 各ユニットでは、まず最初に、イラストで漢字語を導入することで圧迫感が減り、漢字との出会いが楽しくなります(次頁「図3」参照)。イラストを見て漢字語の読み方を考えたり、また記憶するときのヒントを見つたりします。

3. 『みんなの日本語初級』で習った語彙を後追い式に学習していく

従来のように、漢字を単位として学習すると、その漢字の音・訓の読みや複数の漢字語を一度に覚えることになり、とても大変です。しかし、語彙を単位として、知っている語を漢字で置き換えることなら、かなり楽なはず。Part は、『みんなの日本語』の第5課を終えてから始めると、既習語彙を後追いして進んでいけます。

「語彙単位で学ぶと、漢字の形や音の体系が見えないのでは」という声を時々聞きますが、入門期から漢字の体系を意識しすぎるのは負担を増やすことになります。本書でも学習が進むとともに、体系の整理は少しずつ、繰り返し行い、最後には「形のまとめ」(漢字忍者4)で全体像を見せて整理します。一度にできるだけ多くのことを盛り込もうとする完全主義的な姿勢が学習意欲を失せさせる一因になるのではないのでしょうか。

4. 「漢字博士」と「漢字忍者」

Part : ユニット第4ページの「漢字博士」(次頁「図4」参照)はそのユニットのまとめや復習で、漢字の形の整理、読み方が異なる漢字の復習、熟語の構成、読み物など、「博士」的に知識を整理しようという趣旨です。また、5ユニット毎に現れる「漢字忍者」(次頁「図5」参照)は、直前5ユニットのまとめや整理を中心として、時にはそれ以前の既習事項あるいは未習事項も扱う(例えば、「漢字忍者4」「形のまとめ」はこの本で学習する220の漢字全て+未習漢字の部首別整理)など、「忍者」的に賢くなるとういうことを意図しています。

5. 参考冊(別冊)

220の各漢字について、漢字単独の意味と読み方、その漢字を含む学習漢字語と学習漢字語を越えた漢字語例などの包括的な情報が整理されています。

みんなの日本語初級 漢字 英語版

西口光一 監修 新矢麻紀子・古賀千世子・高田亨・御子神慶子 著
B5判 180頁 定価(本体1,800円+税)

みんなの日本語初級 漢字カードブック

スリーエーネットワーク 編著
B5判 64頁 定価(本体600円+税)

最後に、本書は一般的な漢字能力と日本語の書き言葉に関する知識や技能の習得も目標としていますので、『みんなの日本語初級』準拠として以外にも、一般的な基礎漢字教材として単独で使うことができます。取り上げた220の漢字は日本語能力試験4級を網羅し、3級の85%をカバーしています。

Minna no Nihongo
みんなの日本語初級Ⅰ
漢字カードブック

表裏

五五五

日 月 火 水 木 金 土 日							
5月	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			



山田さん、
どうですか？
よろしく。

山田さん、
どうですか？
よろしく。

Part II: 27頁より
図3

漢字忍者2

とくしや

I. タスク

1. 男の子 中 学 生 ご主人 前

例：上 かみ → 下 した

1) 男 →	2) 中 →
3) 後ろ →	4) 女の子 →
5) 父 →	6) 奥さん →



2. 高い 古い 好きな 安い 小さい 上手な

1) 大きい →	2) 高い →
3) 新しい →	4) 低い →
5) 強い →	6) ずうな →

II. まとめ：漢字の形

タスク：漢字を書いてください。

1. 左 右 支 店 海 屋

例：大学の近くに 有 名なレストランがあります。

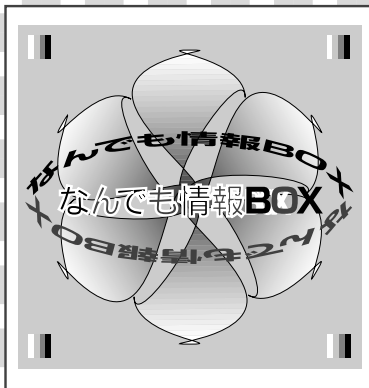
1) きう、道 と フォリビンの映画を見ました。

2) わたしの車はあの車の 車 があります。新しい車です。

Part III

71頁より

図5



セミナー

SEMINAR

●イギリス

日 時 4月29日(土) ロンドン

5月4日(木) マンチェスター

5月6日(土) エジンバラ

内 容 『みんなの日本語』を使った効果的な日本語指導、現地事例報告

* セミナーの詳細は編集室までお問い合わせください。

* 『みんなの日本語』『新日本語の基礎』を使った、国内の日本語教授法出張講座も承ります。ご予算などはご相談ください。

お知らせ

INFORMATION

ホームページでも出版物のご案内をしています。是非ご覧ください。

<http://www.3anet.co.jp>

E-mail ja-net@3anet.co.jp

皆様からの投稿や各コラムへのご質問、ご意見等をお待ちしております。採用させていただいた方にはオリジナルテレホンカードを差し上げます。

このニュースレターをご希望の方は、お名前、ご住所、所属をファックス等で編集室までお知らせ下さい。毎号無料でお届けします。(国内のみとさせていただきます)

『Ja-Net』第14号は2000年7月25日発行予定です。

ほん

BOOKS

みんなの日本語初級

漢字 英語版

西口光一 監修 1,800円
新矢麻紀子・古賀千世子・高田亨・御子神慶子 著

漢字と初めて出会う外国人が「楽しく、楽に、効果的に」学べるよう工夫した漢字学習書。漢字の組織性を認識し、本冊で既習の漢字語彙を学習することで学習者の負担を軽減できる。取り上げた220の漢字は日本語能力試験4級を網羅し、3級の85%をカバー。発売中。

みんなの日本語初級

漢字カードブック

スリーエーネットワーク 編著 600円

『みんなの日本語初級 漢字 英語版』で取り上げた漢字語彙を例文で覚えるカード集。1頁に8つの漢字語彙を載せ、裏には読み方と例文を載せた。漢字を苦手とする外国人が漢字の読み方を覚える手助けとなる教材。授業中はゲームでも使える。発売中。

みんなの日本語初級

練習C・会話イラストシート

スリーエーネットワーク 編著 2,000円

『みんなの日本語初級 本冊』の「練習C」と「会話」の練習を効果的に行うためのイラストシート。音声テープだけでは示すことのできない会話の状況や背景をイラストで提示することにより、授業での活動に現実感を与え、練習を行いやすくなる。発売中。

みんなの日本語初級

携帯用絵教材

スリーエーネットワーク 編著 6,000円

持ち運びに便利なA5サイズの絵カード。『みんなの日本語初級』に準拠した絵になっているため、適切な場面ですぐに使用して便利。名詞85枚、動詞158枚、形容詞49枚、会話表現28枚、計320枚で構成(白黒版)。6月刊行予定。

みんなの日本語初級

翻訳・文法解説ポルトガル語版

スリーエーネットワーク 編著 2,000円
6月刊行予定。

みんなの日本語初級

教師用指導書

スリーエーネットワーク 編著 予価2,800円

『みんなの日本語初級』で教えるにあたって、何をどこまでどのように教えたらいいのか、具体例をあげながら解説したものの。各課の学習項目の文法的な解説をすると共に、具体的な導入・練習例をあげ、指導にあたっての留意点をまとめた。7月刊行予定。

留学生のための

論理的な文章の書き方

二通信子・佐藤不二子 著 1,600円

日本の大学で学ぶ留学生が、レポートや論文など論理的な文章を日本語で書けるようになるためのテキスト。第1部で論理的な文章を書くための基本となる文法・文法・書式などを学び、第2部でさまざまな論理の組み立て方や文章の書き方を学ぶ。発売中。

初級を教える人のための

日本語文法ハンドブック

松岡 弘 監修 2,200円
庵 功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘 著

日本語教師が初級日本語を教えるのに必要な文法項目を網羅しており、これ一冊あれば教えるために必要な文法知識を全て得られる。各項目を「これだけは」「もう少し」「もう一歩進んでみると」の3段階に分けてわかりやすく解説し、経験の浅い教師から、ベテラン教師までのニーズに対応。巻末には便利な主要教科書との対照表つき。5月刊行予定。

書籍の価格は税別

Ja-Net ジャネット (季刊) 13号

2000年4月25日発行

発行人・小川巖

発行所・(株)スリーエーネットワーク

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-6-3 松栄ビル

Ja-Net編集室 電話 03-3292-6410 FAX 03-3292-6197

営業課 電話 03-3292-5751 FAX 03-3292-6195

<http://www.3anet.co.jp> E-mail: ja-net@3anet.co.jp

印刷・日本印刷(株)

© 2000 by 3A Corporation Printed in Japan (禁無断転載)

スリーエーネットワークという社名は、アジア(Asia)、アフリカ(Africa)、ラテン・アメリカ(Latin America)のいわゆる発展途上国の多くが存在する3つの地域をネットワークでつなぎ、相互理解と友好の促進を図ろうという趣旨をシンボライズしています。